

高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 国語 科目 現代の国語

教科： 国語 科目： 現代の国語 単位数： 2 単位

対象学年組：第1学年 A組～ H組

使用教科書：（『現代の国語』筑摩書房（143 筑摩 現国 712））

教科 国語

の目標：

【知識及び技能】

生涯にわたる社会生活に必要な国語について、基礎的な知識を身に付け、その特質を理解して適切に使用している。

【思考力、判断力、表現力等】

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、自らの考えを言語化した上で他者と関わる中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。

【学びに向かう力、人間性等】

言葉を通じて思考し、積極的に世界や他者と関わって思いや考えを深めながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目 現代の国語

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解し、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けて活用している。	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く物事を理解したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通してものの見方、感じ方、考え方を深めながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、積極的に他者や社会、世界と関わろうとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
		話・聞	書	読					
1 学 期	A 「システムと変異」 【知】文、語、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。 【思】文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。	・主題、主張の内容、主張の根拠や理由を把握する。 ・同値や対比などの論の構造を捉える。 ・接続関係を把握する。 ・要約文のまとめ方を理解する。	○	○	【知】文、語、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 【思】文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	○	○	○	4
	B 「ことばとは何か」 【知】文、語、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。 【思】自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方考えをともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫することができる。	・主題、主張の内容、主張の根拠や理由を把握する。 ・同値や対比などの論の構造を捉える。 ・接続関係を把握する。 ・言語への認識を深め、言語経験を豊かにし、言語に関する興味・関心を育む。 ・日本語とほかの言語との違いについて調べ、文章を書く。	○	○	【知】文、語、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 【思】自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方考えをともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。	○	○	○	5
	定期考査					○	○		1
	C 「主体という物語」 【知】主張と論拠など情報と情報との関係について理解することができる。 【思】文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。	・主題、主張の内容、主張の根拠や理由を把握する。 ・同値や対比などの論の構造を捉える。 ・接続関係を把握する。 ・人間が自己の主体性にこだわるという事実を理解する。 ・主張における論拠の重要性を理解する。	○	○	【知】主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 【思】文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	○	○	○	6
	D 「マルジャーナの知恵」 【知】実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すと同時に、語句や語彙の構造や特色、用法などを理解し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 【思】論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫することができる。	・主題、主張の内容、主張の根拠や理由を把握する。 ・同値や対比などの論の構造を捉える。 ・接続関係を把握する。 ・資本主義の本質を理解し、情報が商品化された背景を知る。 ・語り継がれる寓話や昔話が、今日なお人口に膾炙する理由について考えをまとめ、他者に伝達し、理解を深める。	○	○	【知】実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すと同時に、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思】論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。	○	○	○	6
定期考査					○	○		1	
E 「来るべき民主主義」 【知】引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使用することができる。 【思】目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討することができる。	・哲学者のことばを手がかりにして、ものごとを根本から問い直していく議論の組み立て方を理解する。 ・他者のことばや思考を身近な問題にあてはめ、自らの考えを深める。	○	○	【知】引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使用している。 【思】目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。	○	○	○	7	
F 「魔術化する科学技術」 【知】文、語、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。 【思】文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。	・主題、主張の内容、主張の根拠や理由を把握する。 ・同値や対比などの論の構造を捉える。 ・接続関係を把握する。 ・古代・中世の宗教、神話という非科学的方法と、現代の科学という方法の対比を明確にする。 ・現代の社会では科学的方法が万能に見做されるがゆえに、科学が魔術化されようという逆説性を理解する。	○	○	【知】文、語、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 【思】文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	○	○	○	7	



年間授業計画

高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 国語 科目 言語文化

教科： 国語 科目： 言語文化 単位数： 3 単位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ H 組

使用教科書：（『言語文化』筑摩書房（143 筑摩 言文 712））

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その歴史性や特質を理解し適切に使っている。

【思考力、判断力、表現力等】 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、思考力を身に付け、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く物事を理解したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通してものの見方、感じ方、考え方を深めながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、積極的に他者や社会、世界と関わろうとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数	
		話・聞	書	読						
A「絵仏師良秀」（『宇治拾遺物語』） 古典文法（動詞の一部まで） 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	・歴史的仮名遣いについて理解する。 ・品詞について理解する。特に用言（動詞の一部）の区別を理解する。 ・古文単語の知識を身に付ける。 ・文中の省略語を補って現代語訳する。 ・説話の特色について理解する。			○	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思】説話という文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	11	
	B 漢文への扉 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	・日本語と漢文の構造の違いを理解する。 ・漢文訓読の仕方を学ぶ。 ・返り点の種類と、それに従った読み方を理解する。 ・書き下し文の原則を理解する。 ・助字（置き字）の種類と用法を理解する。 ・返読文字の種類と、その読み方・意味を理解する。			○	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	4
	定期考査						○	○		1
1 学期 C「芥川」「筒井簡」（『伊勢物語』） 古典文法（用言） 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	・古文単語の知識を身に付ける。 ・用言（動詞の一部）の区別を理解する。 ・物語の内容を把握し、和歌に託された人物の心情を読み取る。 ・物語に描かれた平安時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。 ・歌物語の特色や、『伊勢物語』について理解する。			○	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思】歌物語という文章に表れている当時の人のものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	8	
	D「守株」（『韓非子』） 【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	・原文筆写や音読などによって漢文に親しみ、漢文の世界を味わう。 ・文章の構成・展開、表現の特色について考える。 ・漢文を読むために必要な訓読の決まりや句法を学ぶ。（再読文字を重点的に） ・教材に描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する			○	【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	5
	E「朝三暮四」（『列子』） 【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	・原文筆写や音読などによって漢文に親しみ、漢文の世界を味わう。 ・文章の構成・展開、表現の特色について考える。 ・漢文を読むために必要な訓読の決まりや句法を学ぶ。 ・教材に描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。 ・故事成語について理解する。	○		○	【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	8
定期考査						○	○		1	
F「つれづれなるままに」「丹波に出雲といふ所あり」その他の文章（『徒然草』） 古典文法（助動詞） 【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	・助動詞について理解する。 ・古文単語の知識を身に付ける。 ・随筆の内容を把握し、作者の心情を理解する。 ・随筆に描かれた鎌倉時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。 ・随筆の特色や、『徒然草』について理解する。	○		○	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思】随筆という文章に表れている筆者のものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	10	

2 学 期	G「借虎威」(『戦国策』)	・原文筆写や音読などによって漢文に親しみ、漢文の世界を味わう。 ・文章の構成・展開、表現の特色について考える。 ・漢文を読むために必要な訓読の決まりや句法を学ぶ。 ・教材に描かれた当時の中国の人々の生活や、もの見方・感じ方を理解する。 ・時代背景や故事成語についての理解を深める。				○	【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 【思】作品や文章に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	4
	H「管鮑之交」(十八史略)	・本文の内容を把握し、登場人物の心情を理解する。 ・本文に描かれた当時の中国の人々の生活や、もの見方・感じ方を理解する。 ・中国の歴史・文化について理解する。 ・漢文の特色を声に出して味わう。				○	【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 【思】作品や文章に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。				4
	I 唐詩	・それぞれの唐詩を声に出して読み、音声として味わう。 ・唐詩の表現に即して内容を味わい、作者の心情を理解する。 ・唐詩の種類・修辭や、その役割について理解する。				○	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思】作品や文章に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	3
	定期考査							○	○		1
	J「門出」「帰京」(『土佐日記』)	・助動詞について理解する。 ・物語の内容を把握し、和歌に託された人物の心情を読み取る。 ・日記の内容を把握し、作者の心情を理解する。 ・物語や日記に描かれた平安時代の人々の生活や、もの見方・感じ方を理解する。 ・日記の特色や、『土佐日記』について理解する。				○	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思】日記という文章に表れている筆者のもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	4
	K 和歌(『万葉集』・『古今和歌集』・『新古今和歌集』)	・それぞれの和歌を声に出して読み、音声として味わう。 ・和歌の表現に即して内容を味わい、作者の心情を理解する。 ・和歌の修辭やその役割について理解する。 ・さまざまな歌人についての理解を深める。 ・『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』の特色について理解する。				○	【知】本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 【思】作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容を解釈を深めている。	○	○	○	6
	L「漁夫之利」(『戦国策』)	・原文筆写や音読などによって漢文に親しみ、漢文の世界を味わう。 ・文章の構成・展開、表現の特色について考える。 ・漢文を読むために必要な訓読の決まりや句法を学ぶ。 ・教材に描かれた当時の中国の人々の生活や、もの見方・感じ方を理解する。 ・時代背景や故事成語についての理解を深め、漢文の現代への影響を考える。				○	【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 【思】作品や文章に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	7
	M「塞翁馬」(『淮南子』)	・漢文訓読や句法について理解する。 ・教材の内容と故事について理解する。 ・教材に描かれた当時の中国の人々の生活や、もの見方・感じ方を理解する。				○	【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 【思】作品や文章に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	5
	定期考査							○	○		1
	3 学 期	N「大江山」(『十訓抄』)	・1・2学期で学習した文法事項を元に、文中の省略語を補いながら現代語訳する。 ・古文単語の知識を身に付ける。 ・敬語について理解する。 ・説話の特色について理解する。	○			○	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現、敬語などについて理解している。 【思】説話という文章に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○
O「かぐや姫の昇天」(『竹取物語』)		・敬語について理解する。 ・物語の内容を把握し、登場人物の心情を読み取る。 ・物語に描かれた平安時代の人々の生活や、もの見方・感じ方を理解する。 ・伝奇物語の特色や、『竹取物語』について理解する。				○	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現、敬語などについて理解している。 【思】自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。	○	○	○	5
P「雑説」(『唐宋八家文読本』)		・原文筆写や音読などによって漢文に親しみ、漢文の世界を味わう。 ・文章の構成・展開、表現の特色について考える。 ・漢文を読むために必要な訓読の決まりを学ぶ。				○	【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 【思】作品や文章に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	3



年間授業計画

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 国語 科目 文学国語

教科： 国語 科目： 文学国語 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ H 組

使用教科書：（『文学国語』筑摩書房（143 筑摩 文国 708））

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。

【思考力、判断力、表現力等】 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目 文学国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	A「山月記」(中島 敦) 【知】情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 【思】設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。	・漢文調のリズムを味わう。 ・登場人物のやり取りに注目し、会話の表現方法を理解する。 ・作品の基となった古典作品や同じ題材の作品と比較する。			○	【知】情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思】設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。	○	○	○	10
	定期考査					○	○		1	
	B「実体の美と状況の美」(高階秀爾) 【知】文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めることができる。 【思】作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。	・美意識の中に潜む文化的な基準を本文から読み取る。 ・筆者の見解について、資料や解説を参考にしながら考察する。			○	【知】文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 【思】作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。	○	○	○	5
	定期考査					○	○		1	
2 学 期	C「バイリンガリズムの政治学」(今福龍太) 【知】言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解することができる。 【思】文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。	・筆者の分析する内容や伝えようとしている内容がどのようなものか、考察する。 ・筆者が選んだ題材について、日常生活で当てはまる場面を挙げながら論述する。			○	【知】言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 【思】文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。	○	○	○	5
	定期考査					○	○		1	
	D「こころ」(夏目漱石) 【知】人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができる。 【思】作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めることができる。	・人間関係をおさえながら、登場人物を観察・分析し、心理の揺れ動きをたどる。 ・登場人物の様子に留意して、物語を立体的に捉える。 ・テキストの細部に着目しながら物語を読み味わう。			○	【知】人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 【思】作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。	○	○	○	14
	定期考査					○	○		1	
2 学 期	E「永訣の朝」(宮澤賢治) 【知】文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使うことができる。 【思】文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫することができる。	・作者の詩の経歴や作風などを調べる。 ・詩を構成やリズムに注意して読み味わう。 ・詩の内容や表現の技法等を読み解き、鑑賞する。			○	【知】文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。 【思】文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。	○	○	○	3
	定期考査					○	○		1	
	F「寛容は自らを守るために不寛容に対して不寛容になるべきか」(渡辺一夫) 【知】文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めることができる。 【思】文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えることができる。	・筆者のものの考え方、語句の用い方、表現の方法を参考にしながら、文学的な文章の読解について理解を深める。 ・「寛容」であることの意義について考えを深める。			○	【知】文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 【思】文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。	○	○	○	5



年間授業計画

高等学校 令和6年度（2学年用）教科 国語 科目 古典探究

教科： 国語 科目： 古典探究 単位数： 3 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ H 組

使用教科書：（『高等学校 古典探究 古文編』『高等学校 古典探究 漢文編』第一学習社（183 第一 古探 717・718））

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。

【思考力、判断力、表現力等】 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目 古典探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数	
		話・聞	書	読						
1 学 期	A「袴姿、保昌に合ふ事」（宇治拾遺物語） 古典文法（助詞） 【知】古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。 【思】文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。	・説話作品の概要について理解を深める。 ・装束などの古典常識に関する既習事項を確認する。 ・登場人物の言動や心理の推移を正確に捉えながら本文の内容を読み取る。 ・助動詞や敬語などの文語の決まりを正しく理解して本文の解釈に活用する。			○	【知】古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 【思】文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	○	○	○	6
	B「呉越同舟」（孫子） 「侵官之害」（韓非子） 【知】時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができる。 【思】必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができる。	・訓読上のきまりを正しく理解して本文の解釈に活用する。 ・故事成語の由来を理解し、現代における使われ方と本来の意味との違いを考える。 ・本文をとおして作者が何を主張しているのかを考察する。 ・韓非子についての基礎知識を理解する。 ・「侵官」が害になる理由を考察する。			○	【知】時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 【思】必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。	○	○	○	9
	定期考査						○	○		1
	C「門出」「源氏の五十四巻」（更級日記） 【知】古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 【思】古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	・日記文学の概要を理解する。 ・少女時代を客観的に見つめた作者像に触れる。 ・語句の識別について説明する。 ・物語を手に入れるまでの経緯と少女時代の作者の心情の動きを把握しながら、本文の内容を読み取る。			○	【知】古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思】古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。	○	○	○	9
	D「莫歌飾詐」（十八史略） 漢詩 【知】古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めることができる。古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めることができる。 【思】文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができる。	・やや長い文章の漢文に慣れ、読解力を身に付ける。 ・対比構造をもつ本文の構成を把握しながら、内容を読み取る。 ・王と大夫との人間関係や両者の人柄を考察する。 ・近体詩のきまりについて理解を深める。 ・漢詩にこめられた作者の心情を解釈する。			○	【知】古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 【思】文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。	○	○	○	7
定期考査						○	○		1	
E「姥捨」（天和物語） 「雪のいと高う降りたるを」（枕草子） 【知】古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。古典などを読むことを通じて、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができる。 【思】古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	・本文の内容と和歌の関連を理解する。 ・主語を的確に捉え、人物関係や人物の心情を把握しながら読み取る。 ・作者と中宮との関係性を読み取りながら、宮廷生活に関する理解を深める。 ・漢詩や中国の文化の、日本の古典文学への影響について理解する。			○	【知】古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。古典などを読むことを通じて、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 【思】古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。	○	○	○	12	
F「鴻門之会」（史記） 【知】先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。 【思】作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができる。	・長い文章の漢文を読解する力を身に付ける。 ・場面ごとの登場人物の言動や心理を的確に読み取り、人間というものについて考えを深める。			○	【知】先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 【思】作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。	○	○	○	12	





高等学校 令和6年度（3学年用） 教科

国語 科目 論理国語

教科：国語

科目：論理国語

単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ H 組

使用教科書：「論理国語」筑摩書房

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、実社会に必要な国語的知識、技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、自己の思考を深化させ、理解する能力、伝達する能力の向上を図り、自己の陶冶に資する国語力を身につける。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
言葉には、認識や思考を支え、想像される世界を創出する働きがあることを理解し、話し言葉と書き言葉それぞれの特徴と役割、表現の特色を踏まえたうえで、言葉を論理的に理解し、使用する。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理の展開を把握し、情報の整理、相互関係の理解を通して自身の思考の深化を図り、それを適宜、正確に表現する。	文学的文章がもつ価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して積極的、意欲的に他者や社会に関わろうとし、同時に自身の人間性の陶冶に努める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数	
		話・聞	書	読						
1 学 期	A「ファンタジーワールドの誕生」 【知】文章の効果的な組み立て方、接続の仕方を理解する。 【思】論理の展開を叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。	・具合例を通じた筆者の主張を、論理構成を的確に把握して読み解く。 ・西欧的植民地思想と観光地の文化の対比構造を理解する。 ・ファンタジーの意味を理解し、西欧人の未開地観光旅行の意味を考える。	○	○	○		○	○	○	6
	B「トリアージ社会」 【知】文章の効果的な組み立て方、接続の仕方を理解する。 【思】論理の展開を叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。	・具合例を通じた筆者の主張を、論理構成を的確に把握して読み解く。 ・「トリアージ社会」の意味するところを理解する。 ・現代社会の状況の中で自身の自由について、思考の深化を図る。	○	○	○		○	○	○	6
	定期考査						○	○		1
	C「現代日本の開化」 【知】文章の効果的な組み立て方、接続の仕方を理解する。 【思】論理の展開を叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。	・具合例を通じた筆者の主張を、論理構成を的確に把握して読み解く。 ・筆者のいう「現代」について理解する。 ・明治日本が現代社会に及ぼした影響を理解し、現代日本について、思考の深化を図る。	○	○	○		○	○	○	8
	D「『である』ことと『する』こと」 【知】文章の効果的な組み立て方、接続の仕方を理解する。 【思】論理の展開を叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。	・具合例を通じた筆者の主張を、論理構成を的確に把握して読み解く。 ・『である』ことと『する』ことの対比関係を明確にし、社会の中で自身の振る舞いについて考える端緒とする。	○	○	○		○	○	○	8
定期考査						○	○		1	
2	E「地図の想像力」 【知】文章の効果的な組み立て方、接続の仕方を理解する。 【思】論理の展開を叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。	・具合例を通じた筆者の主張を、論理構成を的確に把握して読み解く。 ・身近な物事を分析し、その仕組みを捉える。 ・「地図」という情報の受容について、それを吟味する必要性について考える。	○	○	○		○	○	○	6
	F「異時代人の目」 【知】文章の効果的な組み立て方、接続の仕方を理解する。 【思】論理の展開を叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。	・具合例を通じた筆者の主張を、論理構成を的確に把握して読み解く。 ・身近な物事を分析し、その仕組みを捉える。 ・「地図」という情報の受容について、それを吟味する必要性について考える。	○	○	○		○	○	○	6
	定期考査						○	○		1

